

アメリカ言語聴覚学研修

ハワイ大学マノア校 (UH Manoa) / 9日間 (3月) 約32万円



勇気を出して 一歩踏み出そう!

平崎 真実 言語聴覚学科2年



私がこの研修に参加した動機は、海外に行ってみたかった事と友達に誘われたこともあります。日本と海外の言語聴覚士の違いを知る事で視野を広げられると思ったからです。研修を通して特に印象に残っているのは、障害を持つ児童や患者さんの家族とお話できた事です。本や新聞などから得る情報よりも直接お話を聞くことで、障害を持つ人への見方を変えることができました。他にも講義だけでなく多くの臨床現場を見学することができました。臨床を最初から最後まで見学することで、臨床現場を見る時のコツが分かり、考えの引き出しが増えました。言語聴覚士になった際にこの時の経験が役立つと思います。この研修に参加して多くのことを学び、大学生活の良い思い出をつくることができました。9日間とても充実していました。研修への参加を迷うのであれば、思い切って一歩前に踏み出してほしいです。



海外を体感しよう

山崎 彩香 言語聴覚学科2年



私がこの研修に参加したきっかけは、アメリカの最先端医療の臨床や講義を見学することで、将来、自分が臨床に出る時に、最先端の治療を患者さんに提供できるようになるのではないかと考えたからです。研修で学んだことは、訓練には患者さんが身近に感じるアクティビティを取り入れることです。そうすることで患者さんは、訓練に集中して取り組むことができ、楽しい雰囲気を作り、治療の向上に繋がります。実際にハワイ大学の学生の臨床現場では、患者さんの好きなものや性格、タイプや特徴を捉えたうえでマニュアルを考え、当日の患者さんの様子に合わせて訓練を進めていました。皆さんも是非、ハワイ大学で最先端の言語聴覚士を感じてみてください。

観光・料理

岡村 優香 言語聴覚学科2年



私の青春の1ページになりました

私達の泊まったホテルは、繁華街に近い所にあり、買い物に出かけるにも、ビーチに行くにも、とても便利でした。4日目の夕方、何人かでビーチに行って見た夕陽がとてもきれいで、青春していると実感できました。また、アラモアナセンター内にあるお店のチーズバーガーとアラモアナ付近にあるお店のロコモコがとてもおいしかったです。



現地学生との交流

上野 千佳 言語聴覚学科2年



言葉の壁を越えた交流ができました

私達は現地の学生と一緒に食事をしたり、プレゼントを交換したり、お互いに出し物をしたりして交流を深めました。一緒に現地の伝統的な食べ物を食べた時は聖隷のロゴマークの青・赤・緑の色でデコレーションされたケーキを用意してくれました!プレゼント交換では、出身地の有名な物を交換し合いました。私はみかんを貰いましたが、お菓子やぬいぐるみを貰った学生もいました。出身地、家族、学校や普段の生活など多くのことを話すことができました。相互の出し物では、現地の学生にフラダンスを教えてもらいました。足腰の使い方が難しく、音楽に合わせたとたんに全くできなくなりましたが、Good!という意味のハワイ語「マイカイー!」と、たくさん褒めてもらえてすごく楽しむことができました。私達は「ソーラン節」や「はないちもんめ」を行い、現地の学生も楽しんでくれました。言葉が伝わりにくくて大変でしたが、すごく楽しい1週間でした。



施設・病院見学

最先端の医療技術を目の前に感動の連続



藤岡 舞 言語聴覚学科2年

ハワイの施設や病院は日本とは違い、設備が非常に発達していました。印象に残ったのがシミュレーション室です。シミュレーション室には人間そのものの様なリアルな人形がベッドに置かれていました。その人形は、人間の様に「痛い」や「助けて」など訴えることができ、さらに体温もリアルに再現しており、アメリカの医療設備のすごさを実感できました。言語聴覚士の訓練室では、訓練の様子をカメラで撮影し、LIVE映像を違う場所で見ることができるようになっていました。大学では、過去の患者さんの症例を見るという事はありますが、LIVE映像を見る設備はないので、とても新鮮でした。アメリカの医療技術は発展しているとよく聞いていましたが、実際に最先端の設備を見学できてとても楽しかったです。



仕事としてでなく、患者さん第一の精神を



日置 将太 言語聴覚学科2年

今回の研修では、クリニックや大学の他に、小学校でも言語聴覚士の訓練の様子を見学することができました。日本では言語聴覚士の主な就職先は病院ですが、アメリカでは小学校が主な就職先です。各小学校に必ず一人言語聴覚士が駐在しなければならず、この点が日本とアメリカの一番大きな違いです。小学校の訓練では、訓練を行う側も受ける側も、笑いながら楽しそうに行っていたのがとても印象的でした。日本では淡々と訓練をしている印象でしたが、この訓練の様子を観て、一人ひとりの患者さんの特徴に合わせて訓練内容を変えていくことが必要なのだと感じました。言語聴覚士は、仕事で患者さんに対して訓練をします。その時に仕事だからと訓練するのではなく、患者さんの訓練の目的は何なのか、どうになりたいかを考え、患者さんのなりたいたい姿になれるように訓練することが大切だということを今回の研修で学びました。

日程	スケジュール
1	22:05 中部国際空港発 9:55 (アメリカ時間) ホノルル国際空港着
2	ハワイ大学マノア校ジョンAバーンズ医学部 見学、歓迎昼食会、学生交流会など
3	午前：講義：「失語症と認知症」「嚥下障害」 午後：現地学生との演習
4	午前：ハワイ大学マノア校キャンパスツアー 午後：臨床見学
5	午前：講義：「運動性発話障害」など 午後：討論会の見学、講義：「自閉症」
6	午前：小学校やクリニックでの臨床見学 午後：講演、学生交流会、修了式
7	終日：フリータイム
8	11:50 ホノルル国際空港発
9	16:10 中部国際空港着